

体育館のステージに並んだ着物姿の生徒と会員



狛江高校でユニーク着物授業
高校生が着物ファッションショー

都立狛江高等学校（浜田浩和校長）で、昨年12月にファッションショーやスマートフォンを使ったクイズなどを通して着物について学ぶユニークな授業が行われた。

学外から講師を招き「人間と社会」について学ぶ総合的な学習の一環で、「元気なパラリンピック応援団inこまえ」（芳賀美代子代表）が1年生320人を対象に開いた。同会は日本の伝統文化である着物に障がい者や外国人にも親しんでもらい、和服でパラリンピックを盛り上げようと平成29年から活動している。

授業は12月15日（土）と21日（木）に体育館で実施された。15日は同会会員が黒留袖、振袖、訪問着、色無地、男着物について実物を実際に着て説明した後、結婚式や買い物など用途別の着物

や帯のTPOを説明した。21日は会員が生徒に振袖、黒留袖、訪問着、小紋、紬など用途別の着物の着付けを行った。会員の指導で各

クラス男女数人が制服の上から着付けを体験。続いて、シンガーソングライターの小澤綾子



同級生の前をウォーキング

さんが車いすで着物を着て登場、10歳で筋ジストロフィーになったものの、学校や会社に通いながらタレントなどで活躍するようになるまでの自身の体験を披露するとともに、「違いを楽しみ、さまざまなことにチャレンジして」と語り、自作の歌を披露した。

ファッションショーは、さまざまな着物に身を包んだ各クラス代表の女子と男

子16人が体育館をウォーキングし舞台上でポーズを取った。一方、観客の生徒はスマートフォン用に作った専用のアプリを使い、クイズ形式で着物の種類や用途を答えるテストを行った。

ファッションショーに出演した比留間大和さんは「初めて着物を着ましたが、着付けは思ったより簡単でかっこ良いのでまた着たい」、宮本莉夏さんは「着物は七五三の時以来で、難しい印象でしたが、きょうは帯が結んだ形になっていた

ので簡単に着られて驚きました。着物を着ると背筋が伸びるのでよかったです。でも歩き方が難しい」と話し、担当の坂本竜太教諭は「着物は私たち教師も知らないことが多いと、勉強になりました。生徒たちも楽しんで学習できたので、今後もやりたい」と話していた。芳賀さんは「高校生に教えるのは初めてなので、テキスト作りや着物集めなど事前の

準備が大変でしたが、先生の協力で無事終えられました。若い人たちに着物のことを知ってもらいたい機会になりました」と喜んでいました。

親子でアグリ参加募集
ジャガイモと枝豆栽培

JAマインズが農業体験「親子でアグリ」の参加者を募集している。

都市農業への理解や食農教育が目的で、猪方3丁目にある畑でジャガイモと枝豆を栽培して収穫する。日程は3月19日（土）施肥・畝づくり・ジャガイモ植え付け、4月23日（土）除草作業、枝豆種まき、7月2日（土）収穫・片付けの3回（天候などにより日程の変更あり）で、初回のみ午前9時にJAマインズ狛江支店集合する。

対象は狛江市在住の幼児・児童とその保護者で、定員10組（応募多数の場合は抽選）で、参加費は1世帯1,000円（傷害保険代、種・肥料代等）。

申し込みは2月21日（土）までに電話（☎3488-3435）またはファクス（FAX3488-2830）でJAマインズ狛江支店経済指導部へ。

時は毎週水曜日、午後3時30分～4時30分は相談の場としての利用（要予約）、4時30分～6時はフリースペースで、遊び・読書・勉強などが行える。問い合わせ・相談の予約はメールで tarutotatan.yosikosann@gmail.com。

初のイベントとして3月5日（土）午後1時30分から狛江市市民活動支援センターで、声優でナレーターの高山はるかさんをゲストに招き、自身の特性であるADHDを題材に体験談を中心にした講演会を催す（新型コロナウイルス感染症の感染状況による中止・延期の可能性あり）。

Start & Challenge

若者の生きづらさ解消を目指した居場所作りと悩み相談

「タルトタタン」（西牟田 紘茄代表）は、10代から20代の若者の居場所と相談の場を作るために発足した。よしこさん家（元和泉3-10-4）で週1回活動を行っている。



会場となるよしこさん家

同会は、大学生の西牟田さんが、自身の高校時代の悩みや葛藤、居場所問題などの実体験を基に運営している。地域に同様な悩みを抱え、生きづらさを感じている若者がいるのではと考え、高校生の居場所作りの活動を行おうと狛江市社会福祉協議

会に相談した。同協議会のコミュニティソーシャルワーカーの助言で令和3年度の狛江市市民公益活動事業補助金（スタート補助金）を受け、昨年初夏から活動を始めた。

10月以降、西牟田さんが学業と活動の両立が難しくなったため、運営のみに専念。立ち上げから関わりのある心理カウンセラーの田頭知菜さんに現場活動を依頼するとともに、対象年齢を広げた。開催日

こまえくぼ 1234 からのお便り

ボランティア募集

■広報部会部員

広報紙「こまえくぼ1234」等の記事作成

■体験学習部会部員

狛江の市民先生による出前授業の内容検討等

■ホームページ部会部員

こまえくぼ登録団体の情報発信支援（パソコン、インターネットが使える人）

■おりがみサロン

2日（土）中止

ここに掲載している情報についてはこまえくぼ1234へお問い合わせください。

■切手カフェ

18日（土）・25日（土）13:00～15:00。古切手の整理。古切手の収益をボランティア事業に使用

■デジタルボランティア

イベント等で参加者のパソコンやタブレットなどの利用をサポート

■こまえくぼ広報紙配達ボランティア

毎月初めから10日頃までの間に、「広報誌こまえくぼ1234」を配達（配達先はお問い合わせください）

お知らせ

1月21日（土）から2月13日（土）まで新型

コロナウイルスまん延防止等重点措置が適要されています。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、来館時の利用について一部制限やイベント中止などの対応をしています。ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。詳しくはこまえくぼホームページ等を確認するか、事前にお問い合わせください。

今月のこまえくぼ

休館日 = 1日（土）、8日（土）、11日（土）、15日（土）、22日（土）、23日（土）

市民が取材・執筆する記事

こまえがオミニ

訓練見学●狛江消防少年団

全国初の結団から45年、狛江は私たちが守る

昭和51年、全国で初めて発足した狛江消防少年団。令和3年12月19日（土）の結団45周年活動発表会に先立って11月14日（土）に狛江消防署の裏庭と屋上にある訓練場で行われた予行練習を見学しました。

午前9時30分から子どもたちの元気な挨拶で始まり、狛江で見られる4種類の鳥（ひばり・かもめ・やまばと・かつこう）の名前を付けた4つの班に分かれ、規律（班整列）、7つのちがい（垂幕表示の訓練）、ロープ結びの訓練（本結び・もやい結びなど）、応急救護訓練（三角巾の使い方）を行いました。

小学校3・4年生は楽しみながら防災を学び、小学校5・6年生は同年代の

狛江消防少年団 = 全国で初めて発足した歴史のある少年団。現在は、市内の小中学校3年生から高校3年生の少年少女64人で構成している。



ロープ結びの訓練



7つのちがい

消防のリーダーになります。中学生はリーダー団員として指導力を高めるための訓練と、年齢や経験を考えたものになっていました。中学生のロープ結びは自身の訓練と同時に、小学生に分からないところを教え指導する訓練ともなっているようでした。制服に憧れて入団したわが子がいつの間にか頼れる先輩に成長したことに驚き感動するお母さん。家族を守り地域を守る、そして狛江は私たちが守る！ そんな決意を子どもたちの澄んだ瞳の奥に見ることができました。

活動で一番楽しいことを聞くと、

「学年学校を越えた友人作り」との答えが真っ先に返ってきました。

仲間と大切な時間を一緒に過ごし、時には厳しく、時には楽しい思い出作りとなった夏の合宿（昨年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）やみんなで駆け上がった東京タワーの階段上り、市民まつりでの制服姿も誇らしい堂々の行進（昨年は中止）など。正しい知識や技術を身に付ければ、進級チャレンジテストで金・銀・銅のバッジがもらえるのを目標に訓練に励むことができたと話す子どもたち。

平成30年6月の東京都の競技会ではみんな頑張って練習してきただけに、予選の「ロープ結び（結索）」では1位をとるものの、準決勝・決勝では、結果として敢闘賞に終わり悔しい思いをしました。しかし、その悔しさをバネに誰にも負けない気持ちで一層訓練に励むことができたと話す頼もしい子どもたちは、きっと明日の狛江を背負っていつてくれるでしょう。

（こまえくぼ広報部会）

こまえくぼ1234

〒201-0003 狛江市和泉本町1-2-34 ☎5761-5556 FAX5761-5033 M info@vc.komae.org

ホームページはこちら

